

受章・表彰

◆旭日双光章

武政 輝夫さん（西安下庄出身）
（元周防大島町議会議員）



◆瑞宝単光章

松田 修さん（小松）
（元大島町消防団分団長）



◆全国食生活改善推進員協議会 名誉会員賞

村岡トシコさん（小松開作）
（周防大島町食生活改善推進員）

◆山口県スポーツ功労賞

○大島郡体育協会

○周防大島町グラウンド・ゴルフ協会
大島支部

周防大島の文化財 ③⑨ 小松塩田関係文書

小松塩田は江戸時代前半の元禄元年（1688年）に粟屋帯刀就貞が藩から賜った小松沖干潟百町歩余を開作して、入浜式塩田を設けた事に始まる。元禄八年から製塩を開始した小松塩田は、当初の塩戸21軒塩田30町歩から幕末には26軒45町歩に拡大し、地域の発展に大きく寄与した。

明治38年（1905年）、専売法が制定されて塩田で生産された塩は、専売局が一括して販売を管理するようになった。太平洋戦争後、専売公社の下で食糧用塩の国内自給が目指され、小松塩田でもさまざまな技術改良が行われた。なかでも塩田の景観に大きな変化を与えたのが昭和29年（1954年）に入浜式塩田を改めて塩田の表面をコンクリートで覆う流下式を導入したことである。こうした努力もあり、小松塩田は県内で最後まで操業を続けた塩田となった。しかし、昭和46年4月に施行された「塩業近代化臨時措置法」により国

内の塩田はすべて廃止されることになり、江戸時代から続く小松塩田も同年12月に廃止された。

さて、町教育委員会が保管する塩田関係文書類は明治時代から小松塩田が廃業するまでの期間に記されたもので、「算用帳」や「製塩台帳」「日雇帳」をはじめとする100点余からなる。塩の出荷量や価格、また塩を生産するために塩田で用いられた石炭の量や労働者の人数や給金などがわかる。その他、大正時代の塩釜神社の例祭における寄付者一覧などもあり、小松塩田を中心にした小松・開作地区の繁栄をうかがうことができる。



▲小松塩田関係文書



▶流下式塩田の枝条架装置

《周防大島町文化財保護審議会委員

中野行真》

【P6 ちよび塩クイズ答え：2.2g】

高血圧患者の1日の食塩摂取目標値は6.0g未満です。塩味が強い漬物類には気をつけましょう。